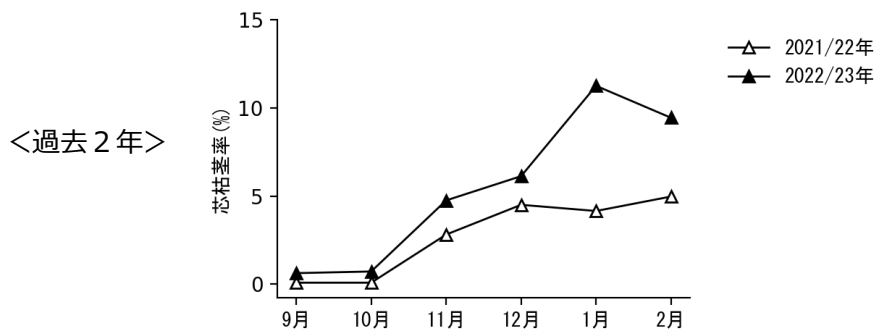
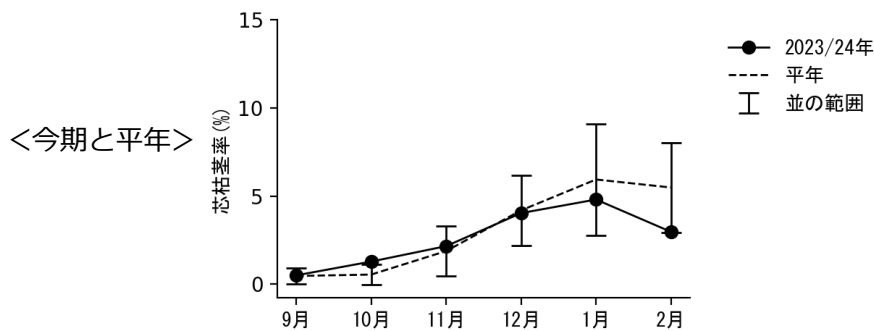


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果


芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生ほ場率73.3% (平年 : 93.9%)

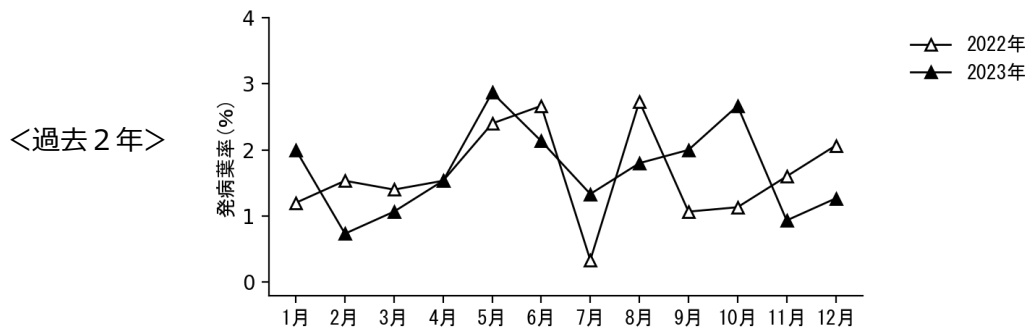
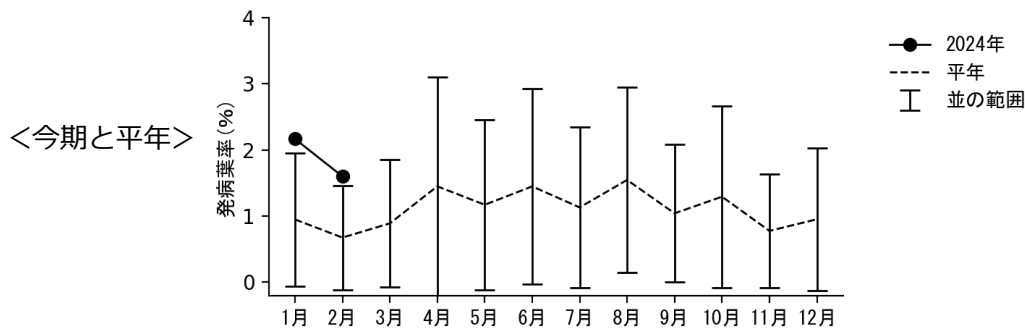
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果

発病葉率の推移




・発生ほ場率40.0%（平年：35.6%）

防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。
- ・令和5年度病害虫発生予察技術情報第10号参照

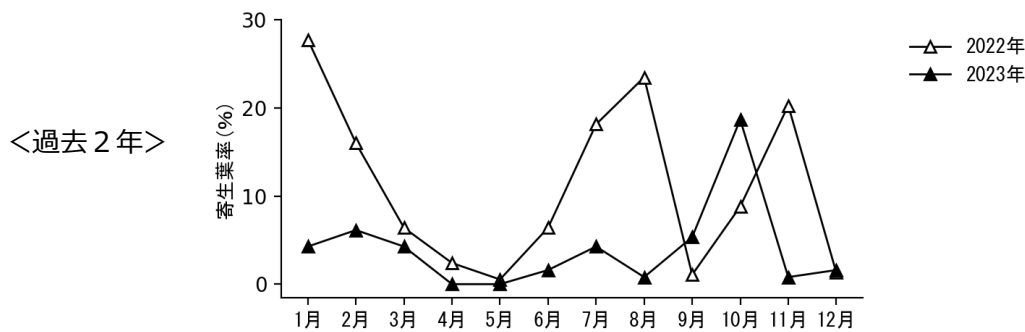
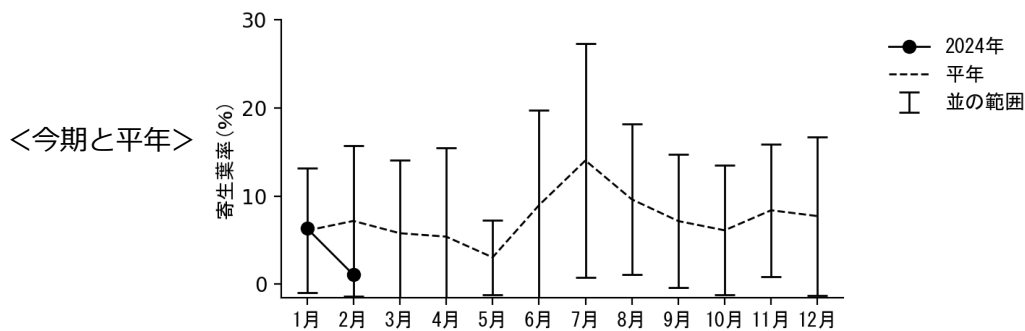
被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類			
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	↓		
	3 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）		

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率60.0%（平年：31.1%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



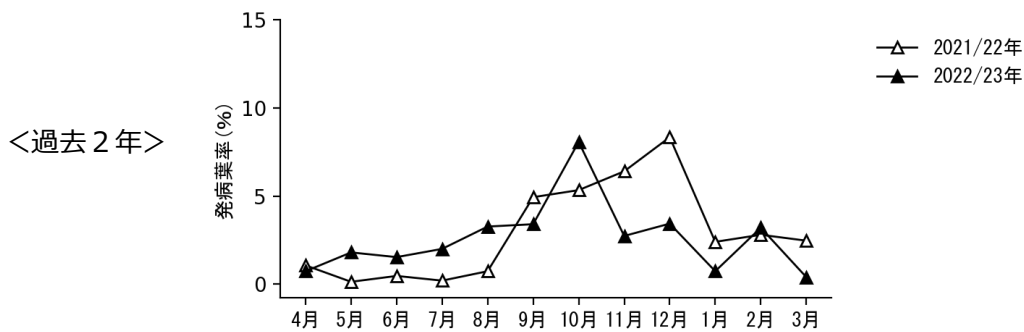
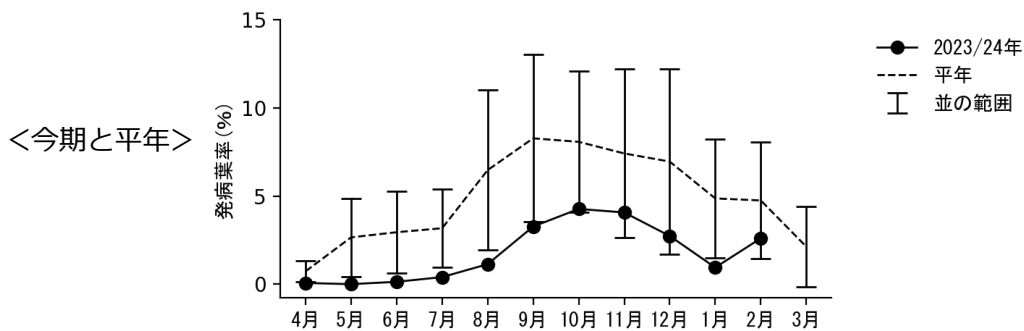
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予 報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	



調査結果

発病葉率の推移




- ・ 葉の発病度0.5（平年0.9）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：73.9%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。
- ・ 令和5年度病害虫発生予察技術情報第10号参照

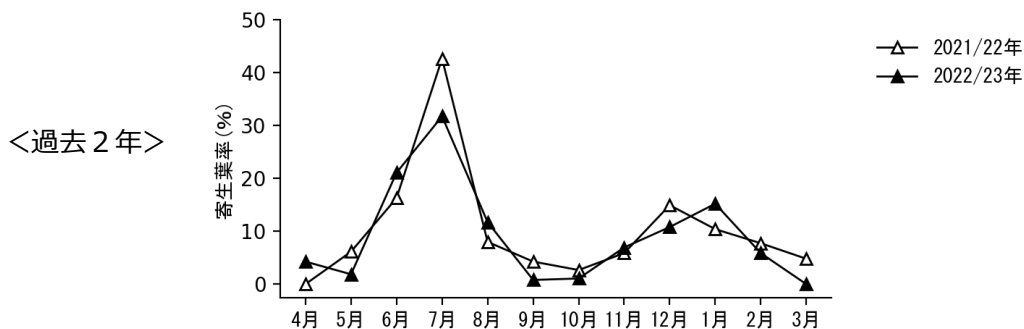
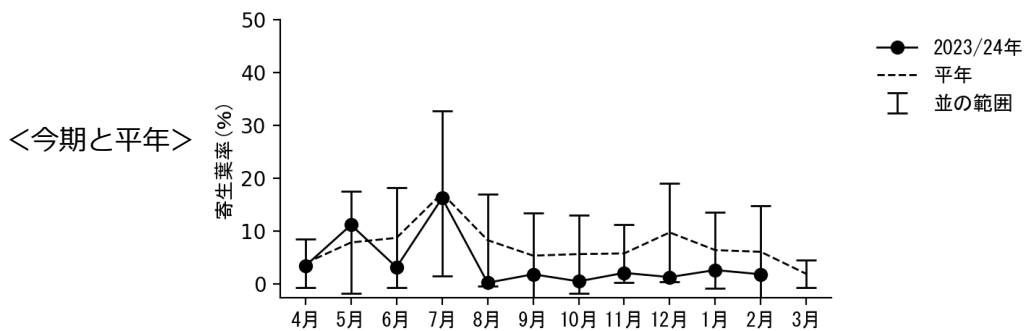


被害葉→

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予報	2 月からの増減傾向	↓	
	3 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率40.0%（平年：34.8%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

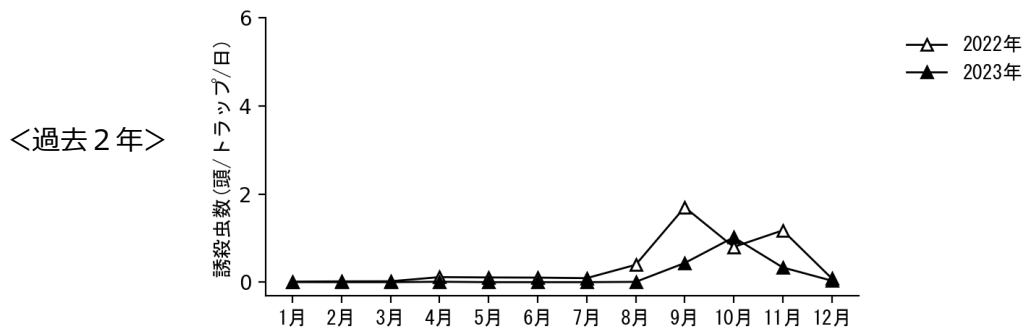
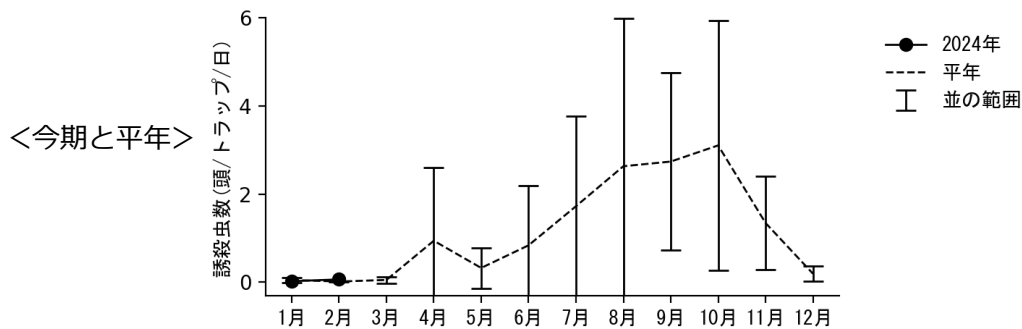


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	多	
予 報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率75.0% (平年：52.5%)

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

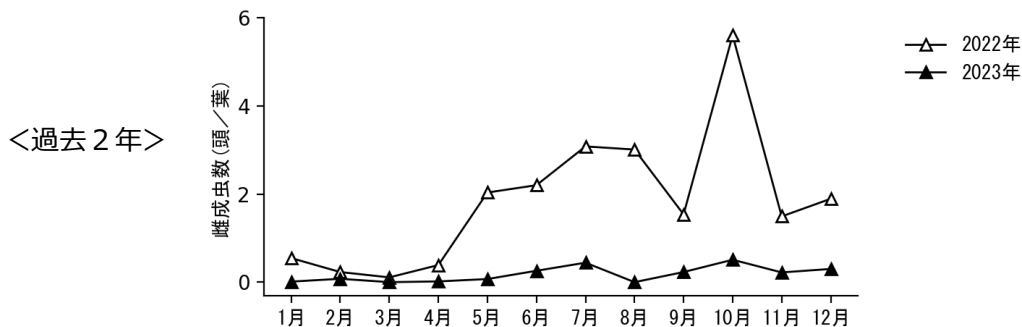
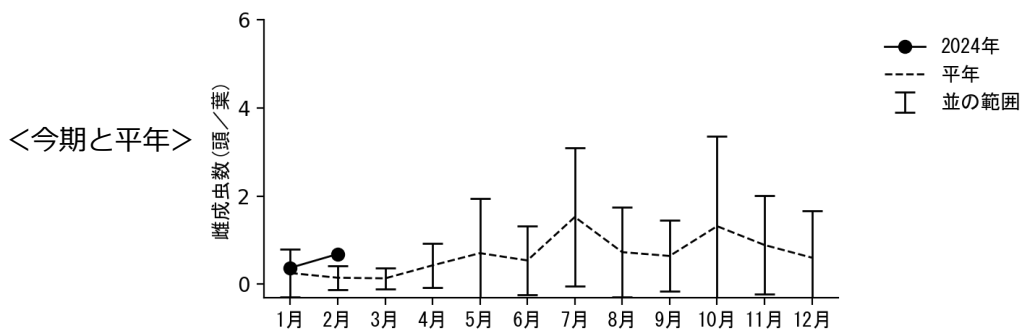


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率37.5% (平年：17.3%) 一部施設で多発

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

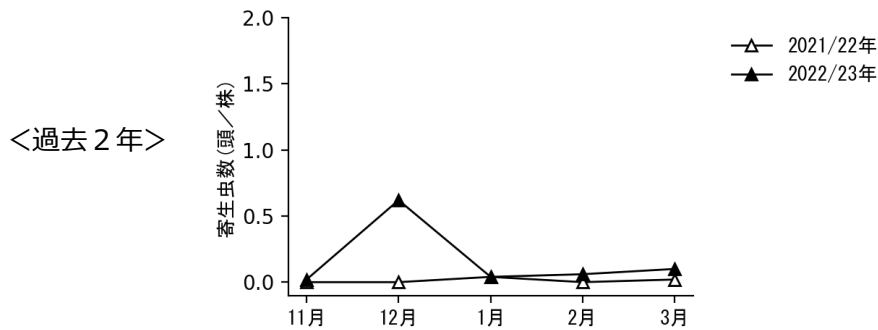
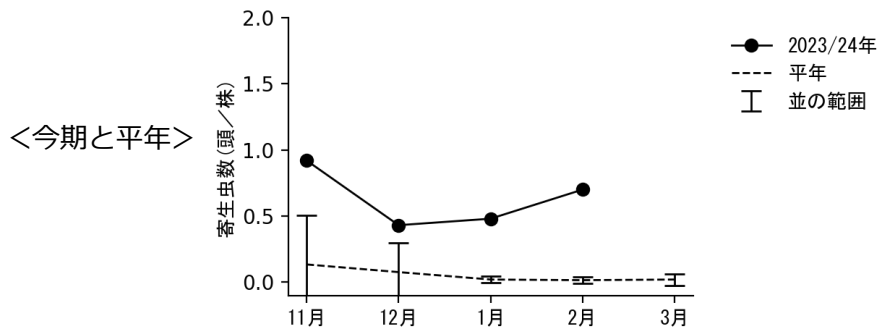


マンゴーツメハダニ

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① チョウ目幼虫		 <p>モンシロチョウ</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生虫数の推移



- ・発生種：モンシロチョウ
- ・発生ほ場率80.0% (平年：10.0%)

防除のポイント


- ・発生源となりうる雑草の除去および、収穫後の残さ処理に努める。
- ・新しい食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



ハスモンヨトウ

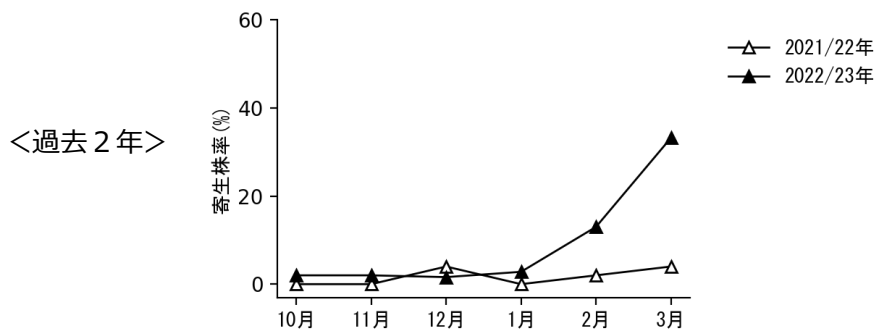
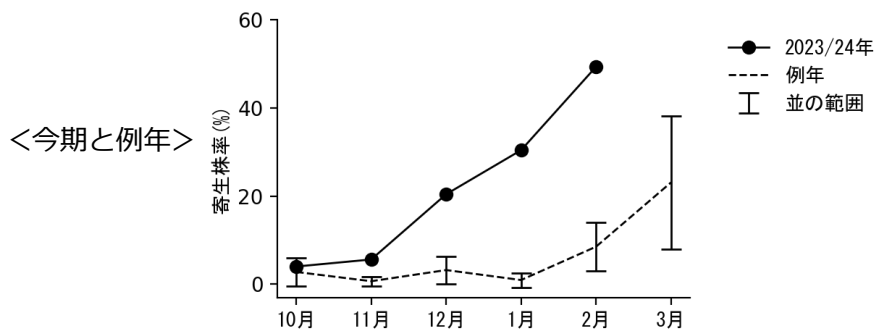


タマナギンウワバ

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	2 月の発生量 (例年比)	多	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (例年比)	多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


寄生株率の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ、ネギアザミウマ
- ・発生ほ場率80.0% (例年：60.0%)

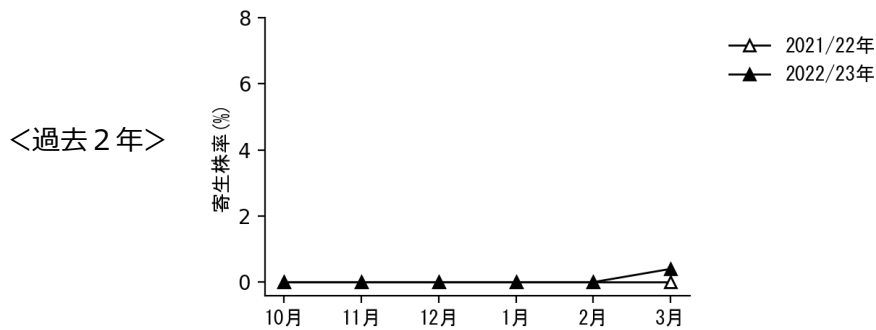
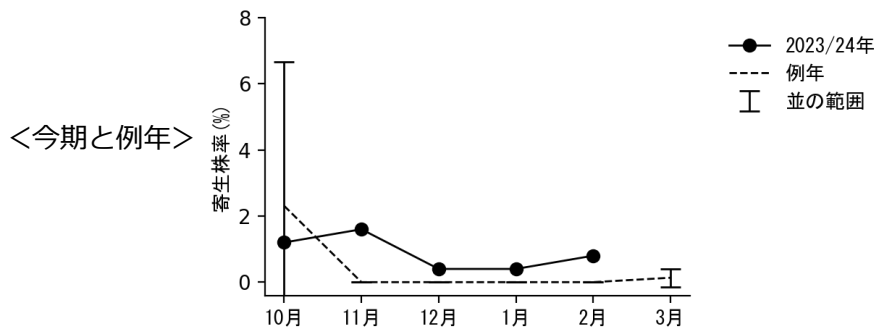
防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場周辺の雑草の除去に努める。
- ・早期発見に努め、適宜薬剤散布を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハスモンヨトウ		
調査結果	2 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果


寄生株率の推移



・発生ほ場率20.0% (例年：0%) 一部ほ場で多発

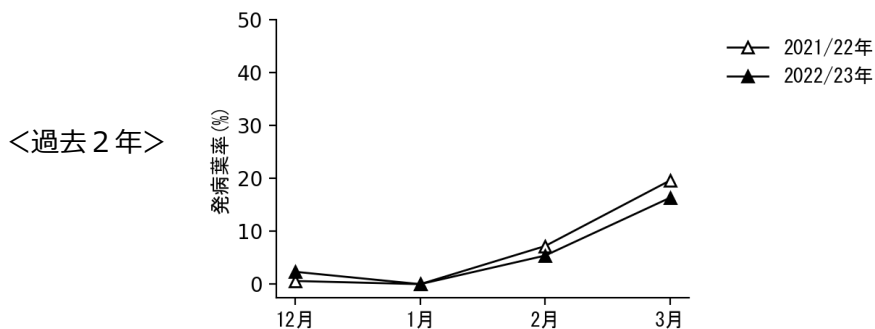
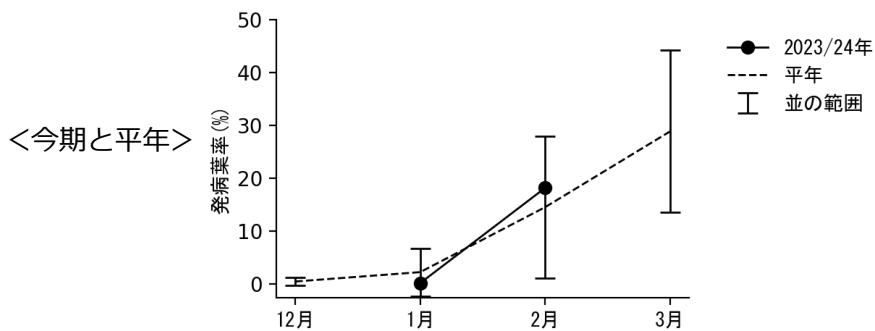
防除のポイント

- ・新しい食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 47.5%)

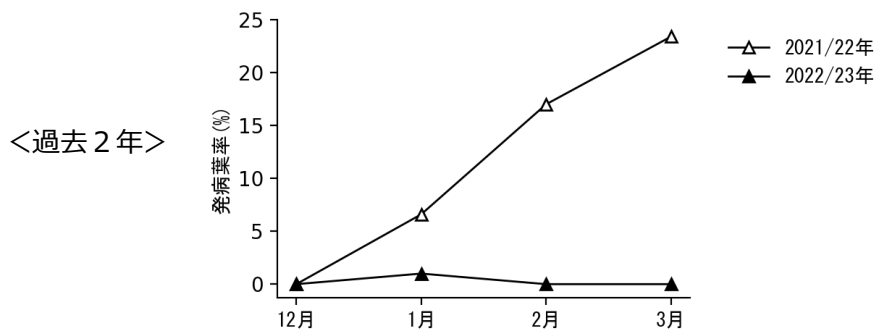
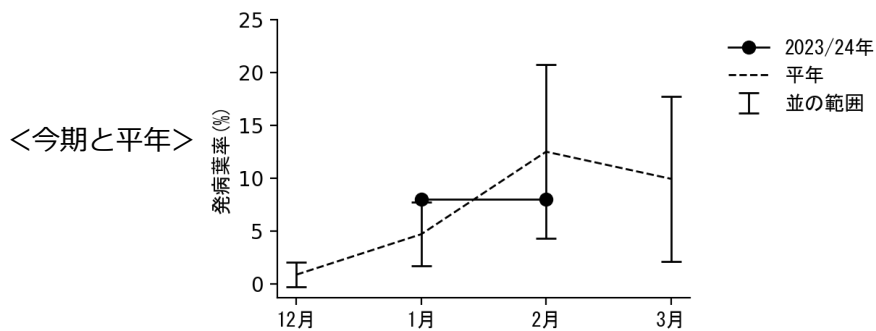
防除のポイント

- ・乾燥時、多肥の時に発生が多く、着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合がある。
- ・多発すると防除が難しくなるので発病初期からの防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	② 斑点・褐斑細菌病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↘	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 56.0%)

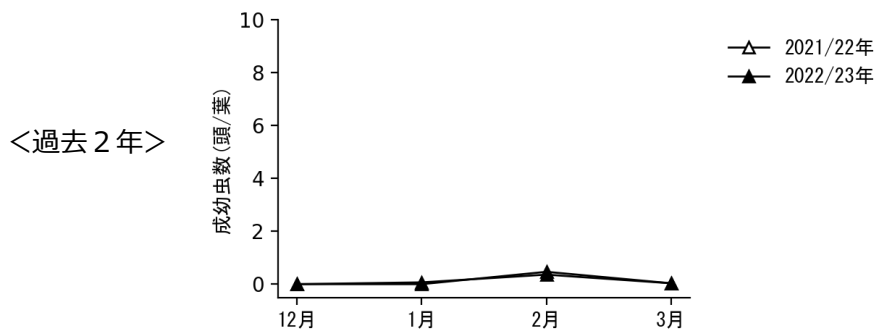
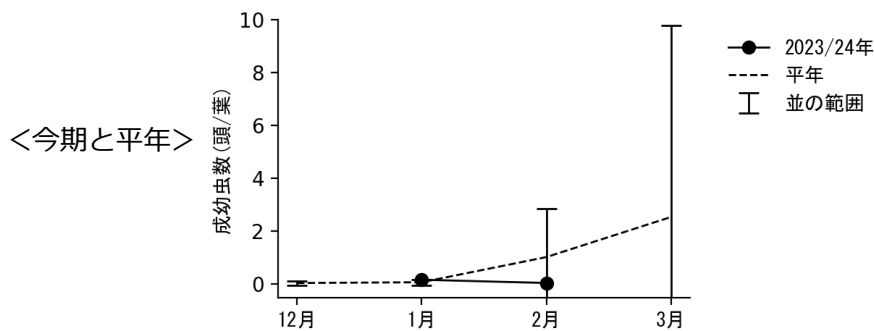
防除のポイント

- ・強風による葉ずれ等の傷口から感染するため、防風垣（防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率60.0% (平年 : 80.0%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

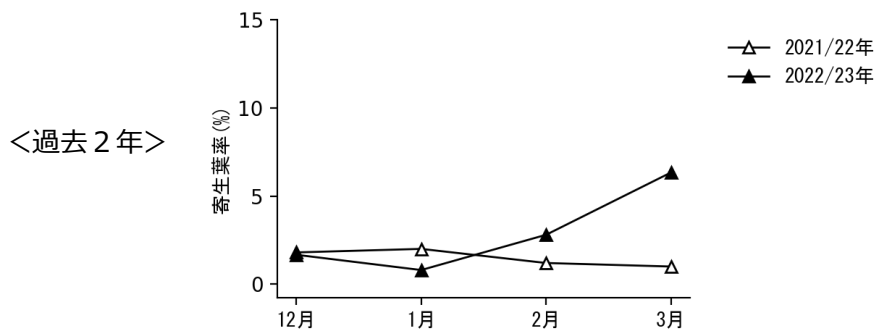
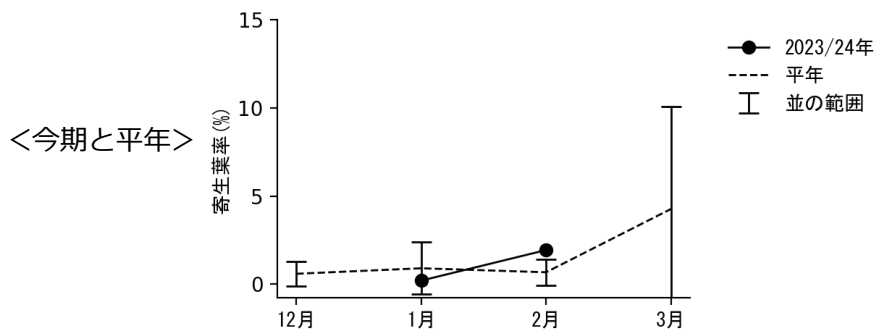


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生葉率の推移




・発生ほ場率60.0% (平年：25.0%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・発生源となりうるほ場周辺の雑草除去に務める。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

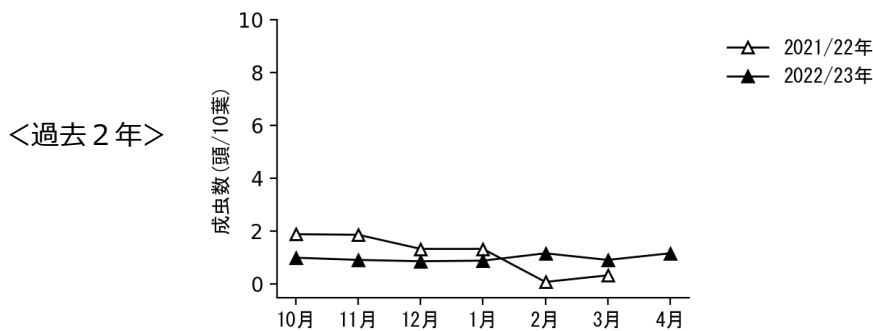
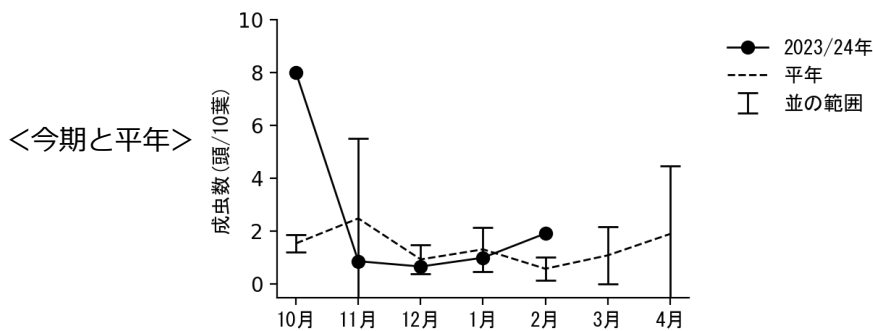
幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	① タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生ほ場率100% (平年：65.0%)、一部ほ場で多発生

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場内外の雑草除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

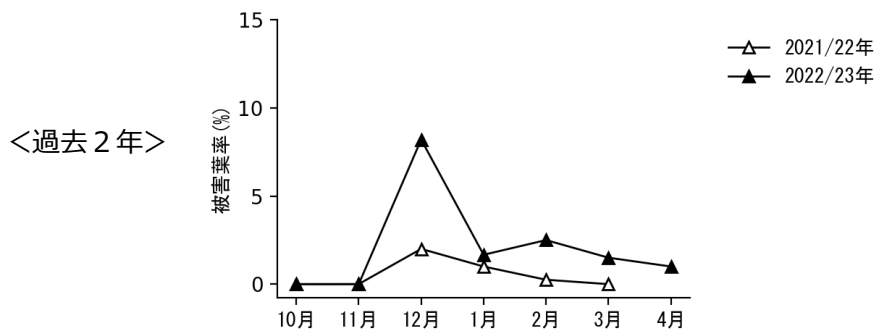
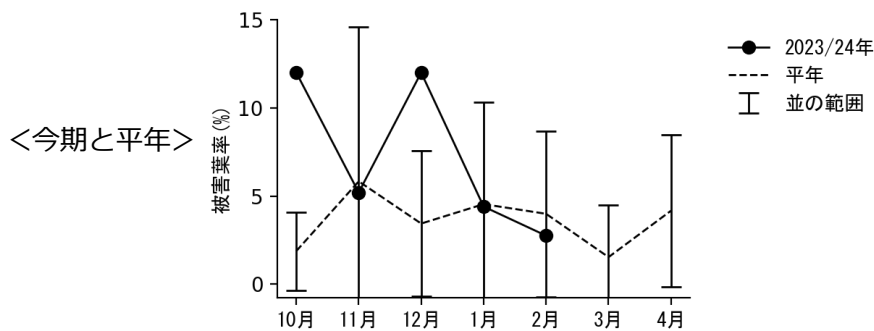


幼虫

作物	さやいんげん(平張)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハモグリバエ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↓		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

被害葉率の推移




・発生ほ場率25.0% (平年：56.2%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・多数の在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

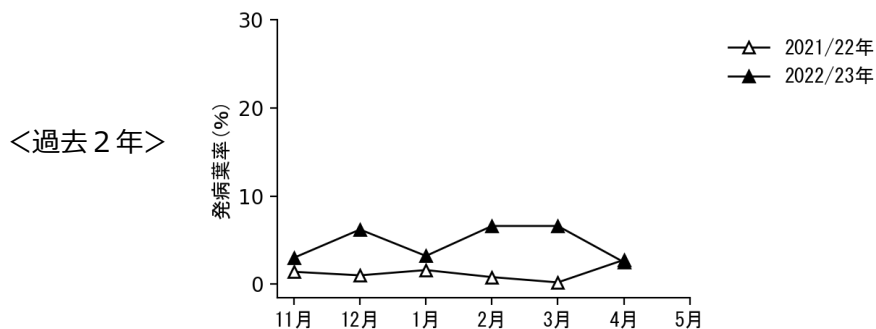
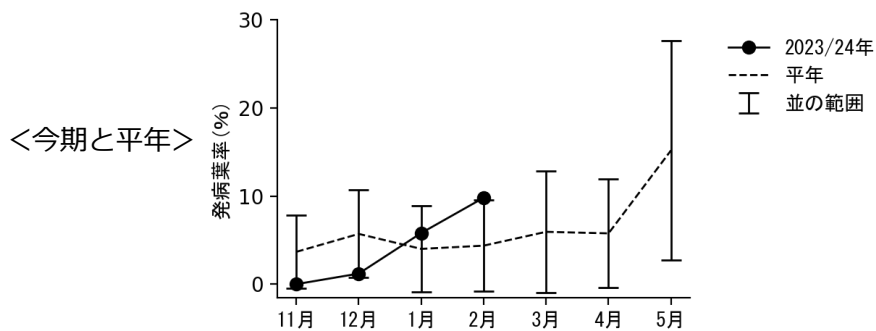


被害葉

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率100% (平年 : 40.8%)

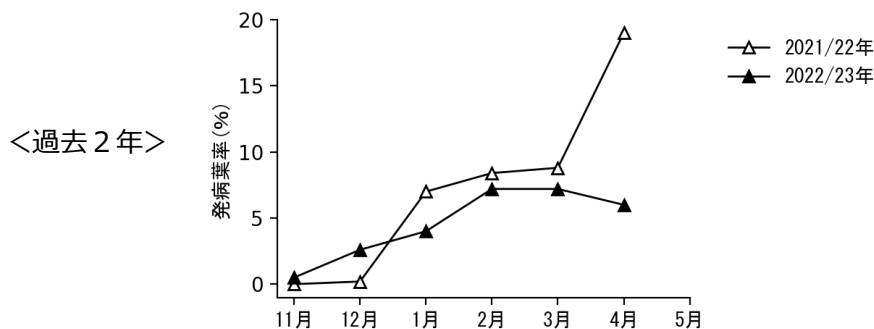
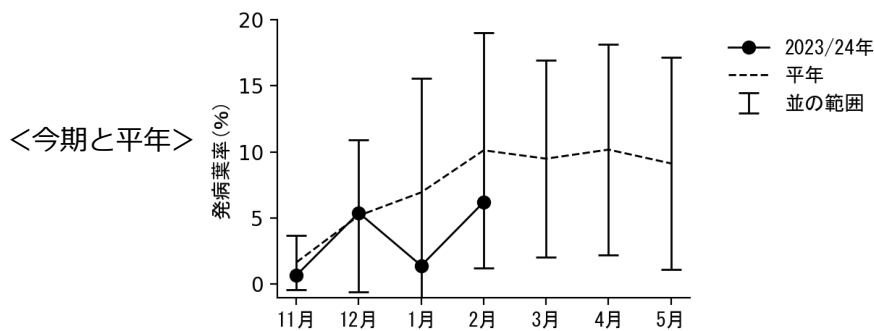
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② 斑点病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率100% (平年 : 73.5%)

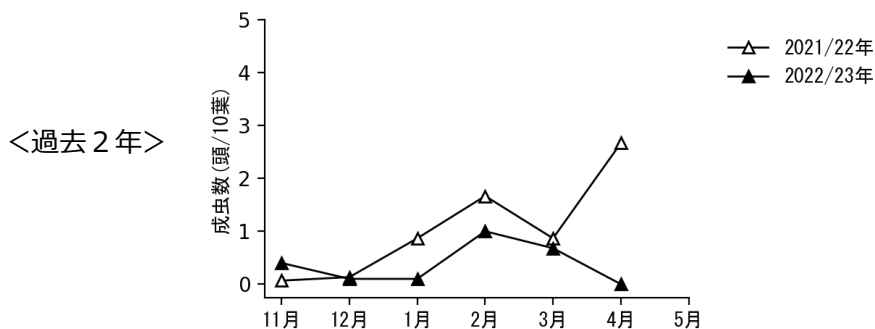
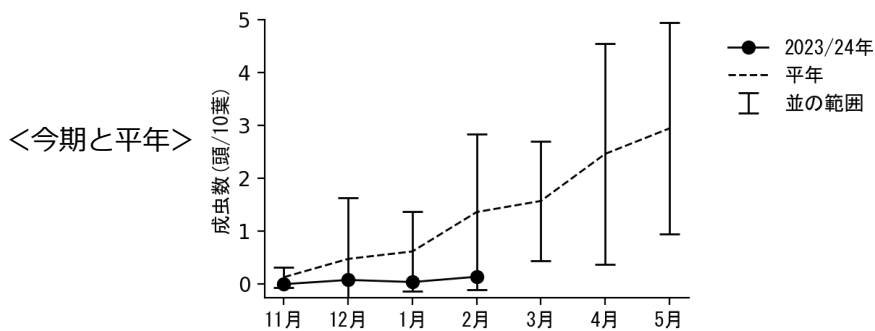
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 45.5%)

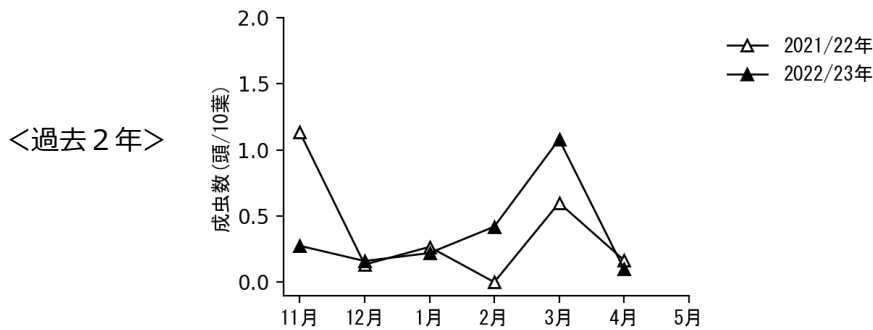
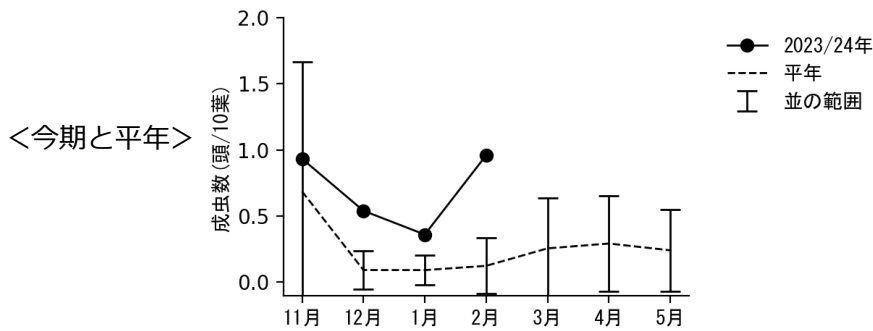
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率80.0% (平年：15.9%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

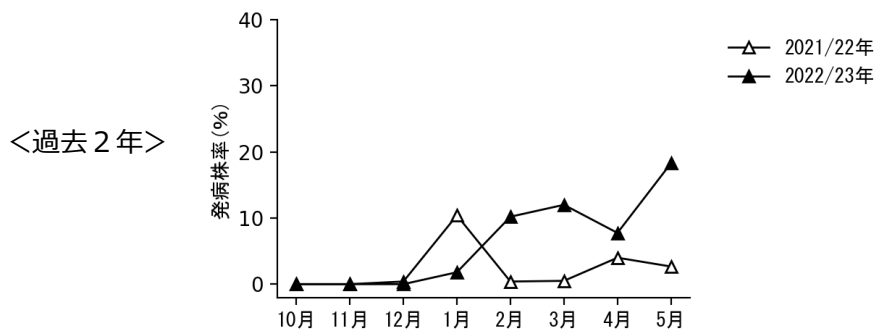
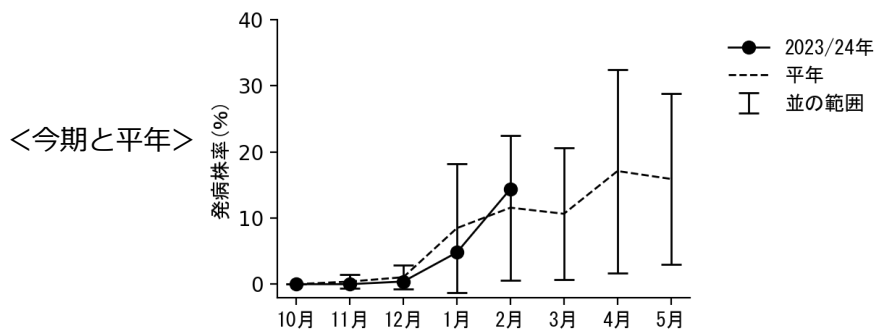


幼虫

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率100% (平年 : 48.3%)

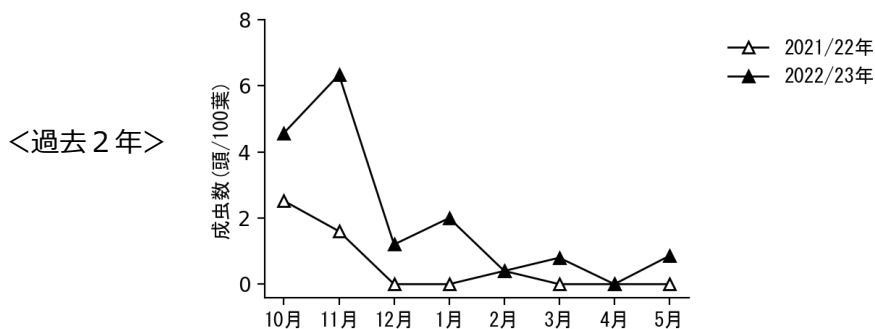
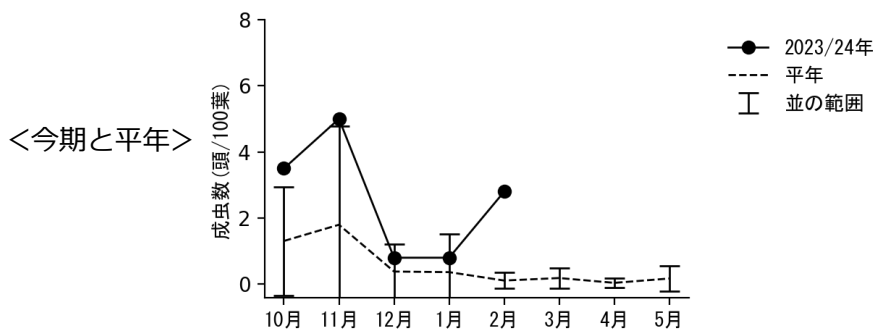
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率40.0% (平年：5.5%)、一部施設で多発

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

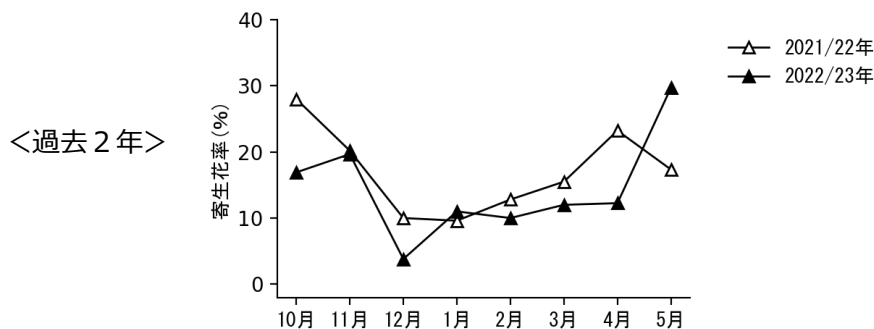
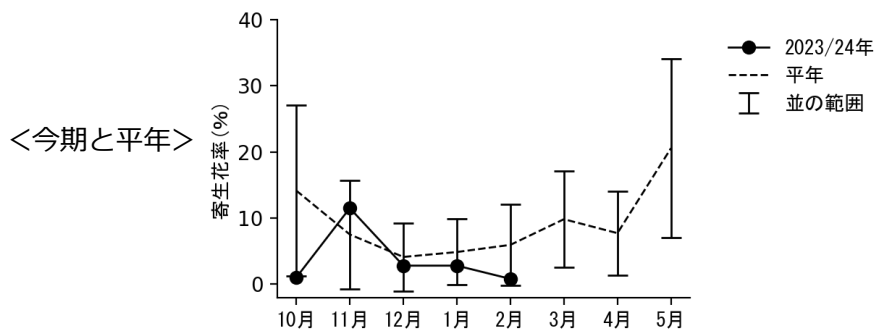


被害葉

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


寄生花率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 42.9%)

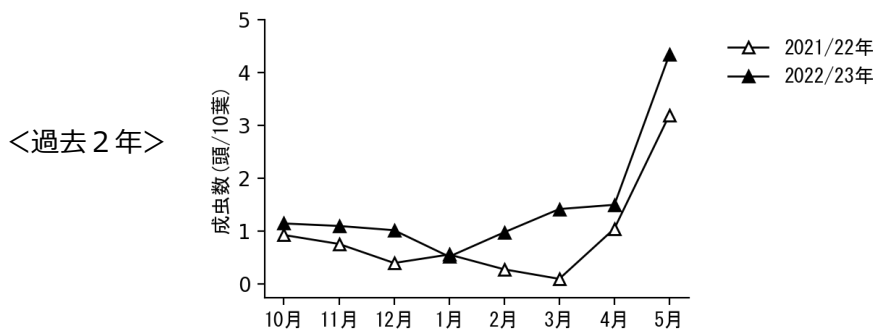
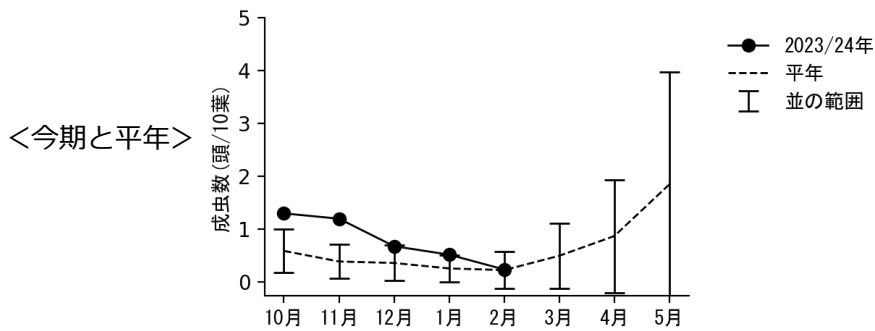
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島	
病害虫名	④ タバココナジラミ		 <p style="text-align: right;">成虫</p>		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並			
予報	2 月からの増減傾向	↗			
	3 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)			

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率80.0% (平年：21.8%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

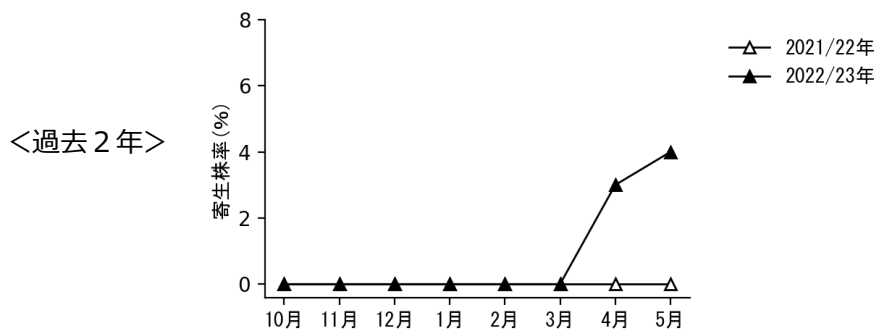
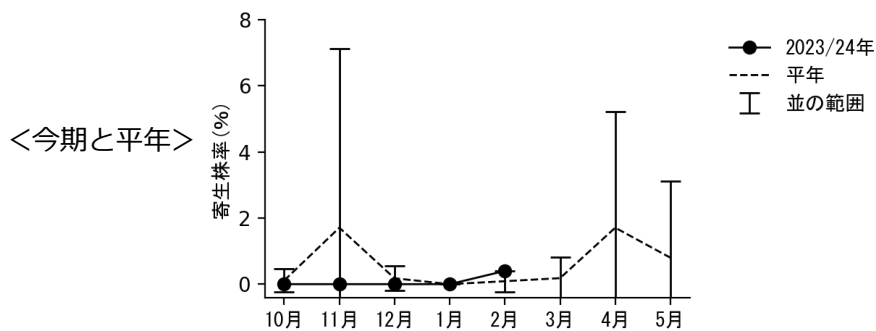


幼虫

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ アブラムシ類			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


寄生株率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 2.2%)

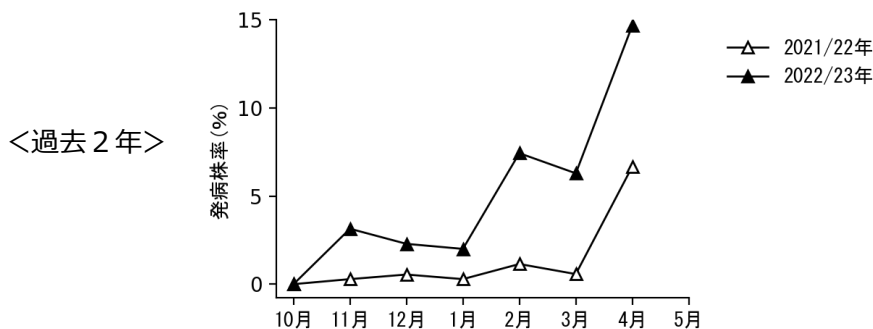
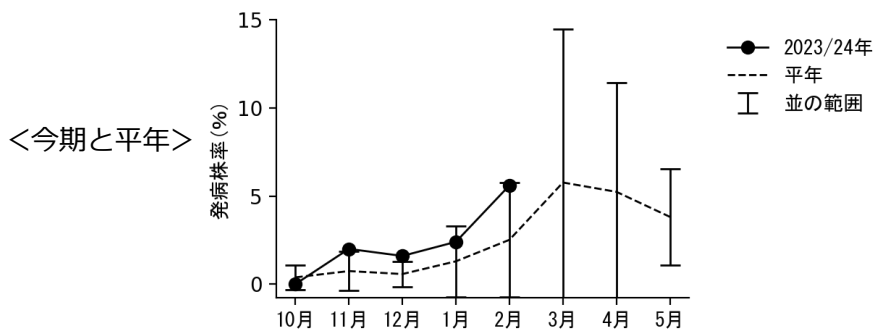
防除のポイント

- ・アブラムシ類はキュウリモザイクウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率80.0% (平年：30.4%)

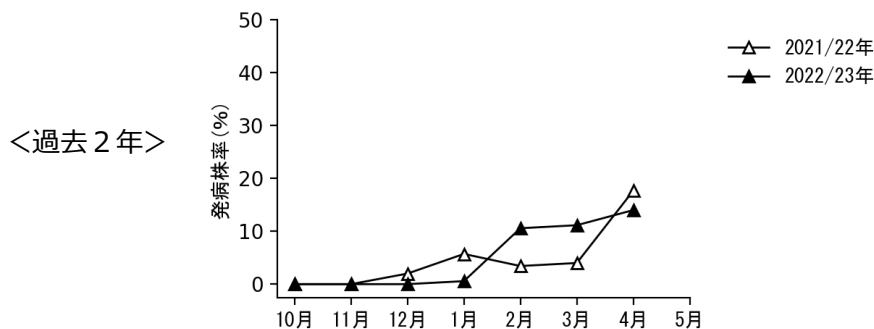
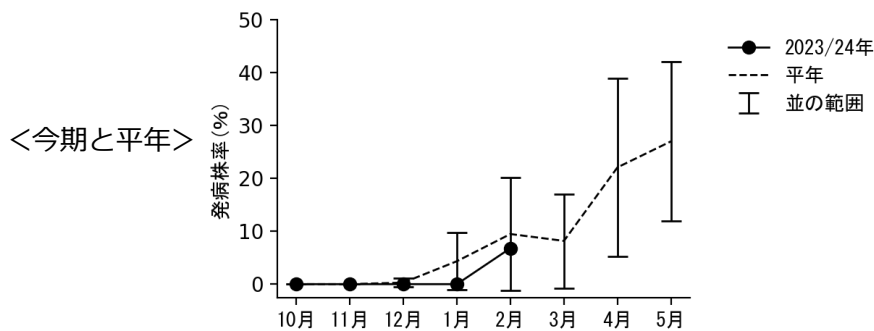
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・伝染源となるムラサキカタバミやノグシ等の雑草除去に努める。
- ・発病株や摘葉残さは伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	→		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 30.4%)

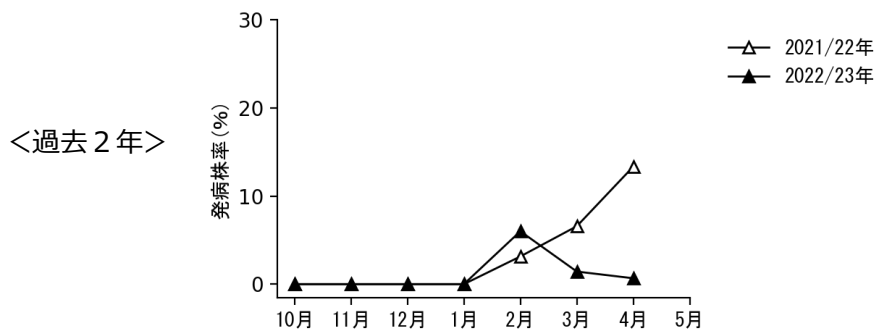
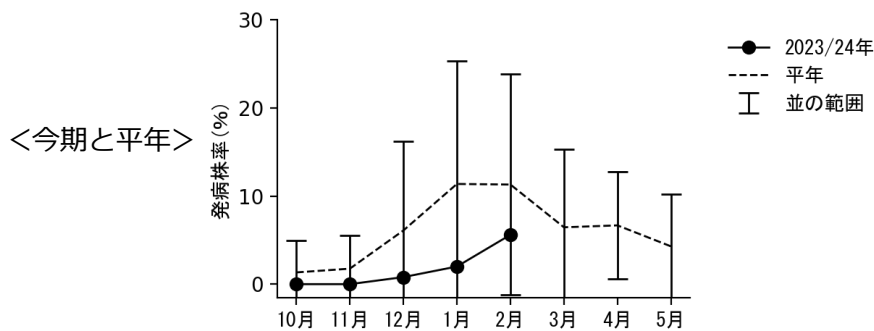
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島	
病害虫名	③ 葉かび・すすかび病				
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並			
予報	2 月からの増減傾向	↓			
	3 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)			

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 47.5%)

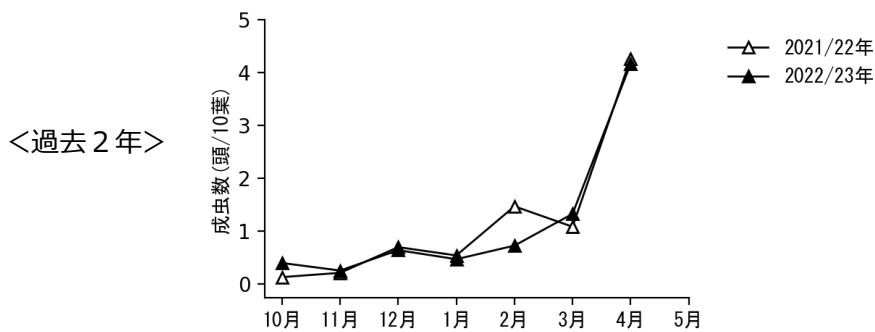
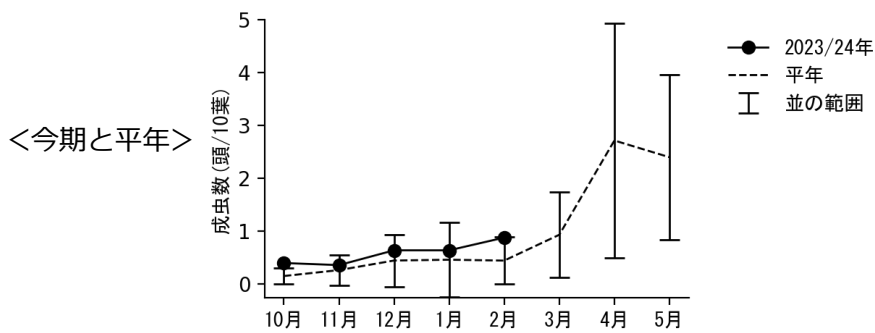
防除のポイント

- ・多湿条件下で発生しやすいので、換気を十分に行い多湿にならないようにする。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。

作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報	2 月からの増減傾向	↗		
	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率100% (平年 : 52.9%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

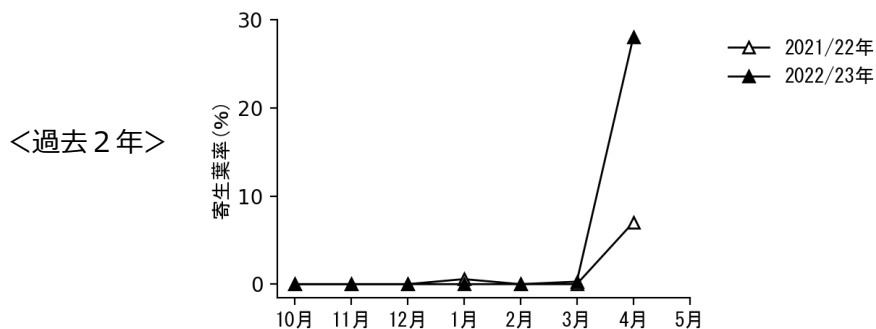
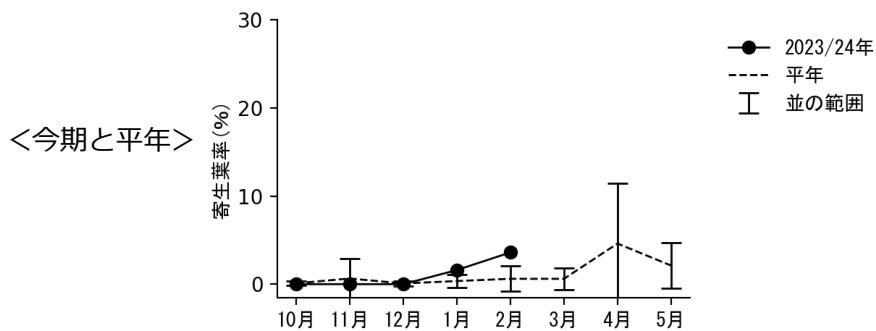


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生葉率の推移




・発生施設率20.0% (平年：8.7%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判定する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

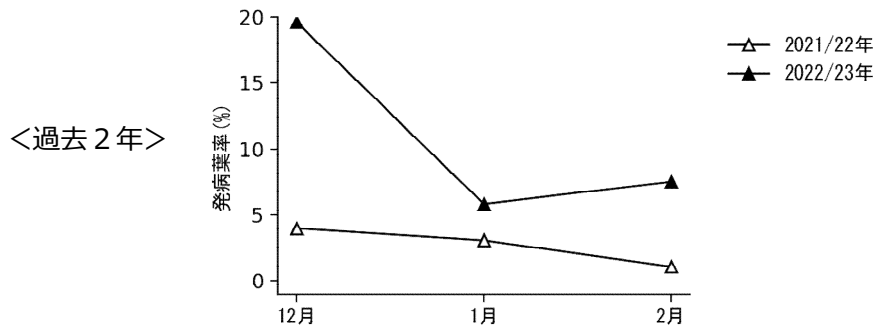
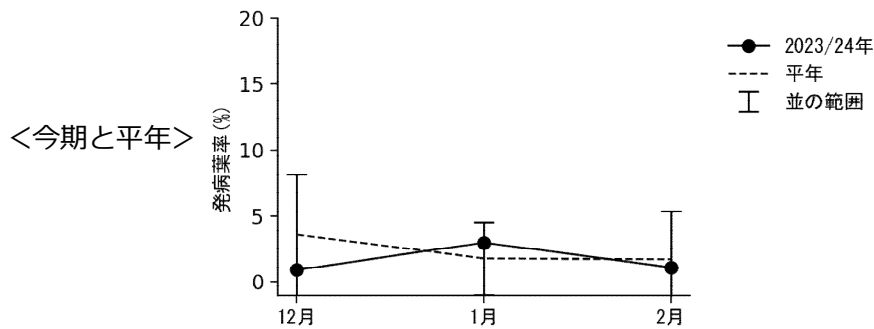


幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑・褐斑病		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予 報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率33.3%（平年：22.0%）

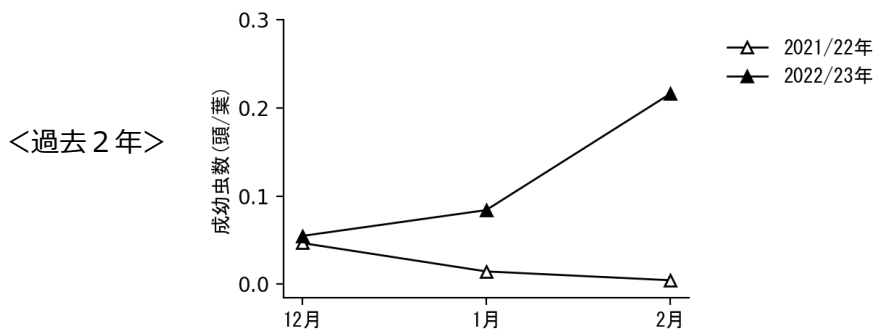
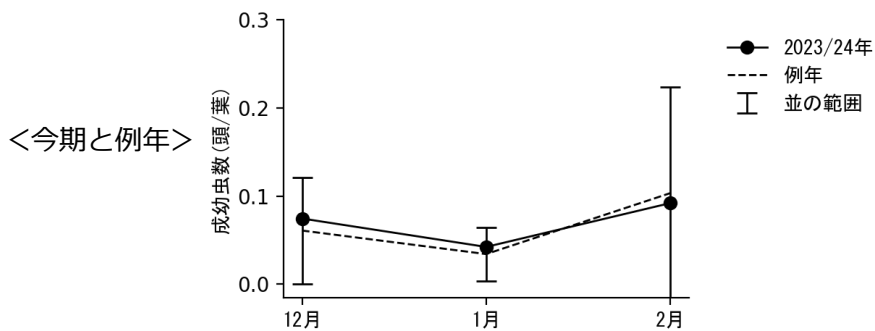
防除のポイント

- ・発病葉は伝染源となるので速やかにほ場外に持ち出し処分する。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・発生が多い場合は薬剤防除を徹底する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	アザミウマ類		 <p>クロゲハナアザミウマ</p>
調査結果	2 月の発生量（例年比）	並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（例年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


成幼虫数の推移



- ・発生種：クロゲハナアザミウマ
- ・発生ほ場率88.9%（例年：47.1%）

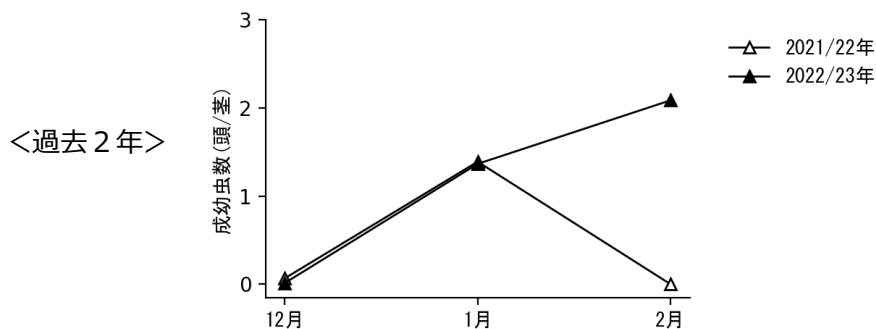
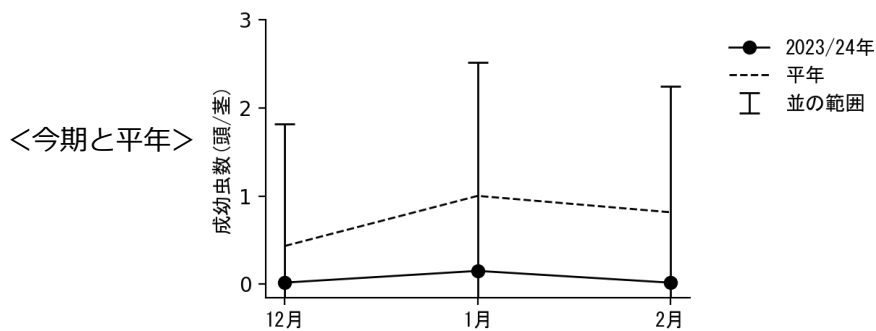
防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、生長段階等の違いがあっても、同時に防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率33.3%（平年：34.7%）

防除のポイント

- ・発生源となりうるほ場内外の雑草を除去する。
- ・発生が認められたら新葉部を中心に発生部位に薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいため、同一薬剤の連用を避ける。

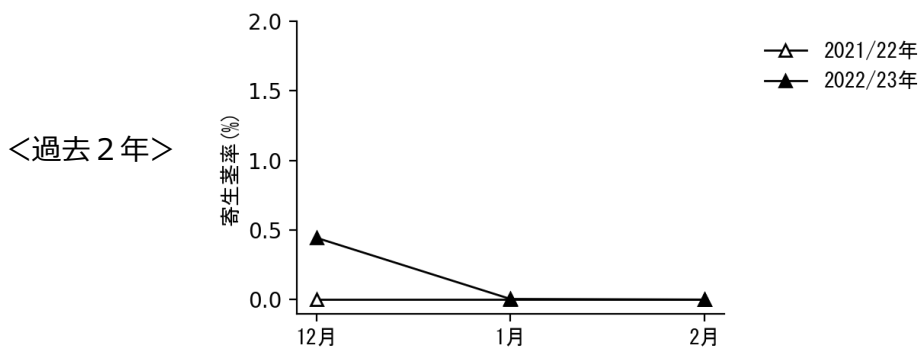
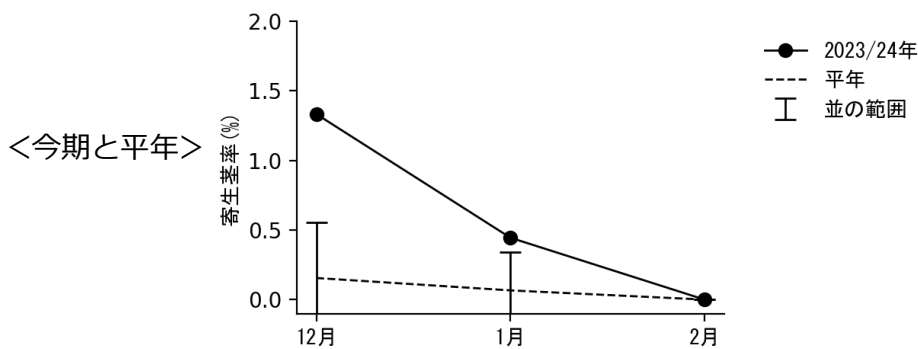


被害の様子

作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		 <p>ハスモンヨトウ</p>
調査結果	2 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

寄生茎率の推移




・発生ほ場率0%（平年：0%）

防除のポイント

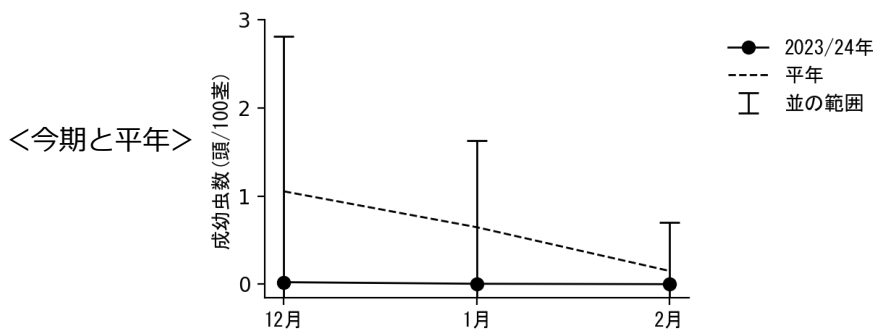
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・新しい食痕や虫糞を見つけたら近くに幼虫がいないか調べ、捕殺または薬剤散布を行う。



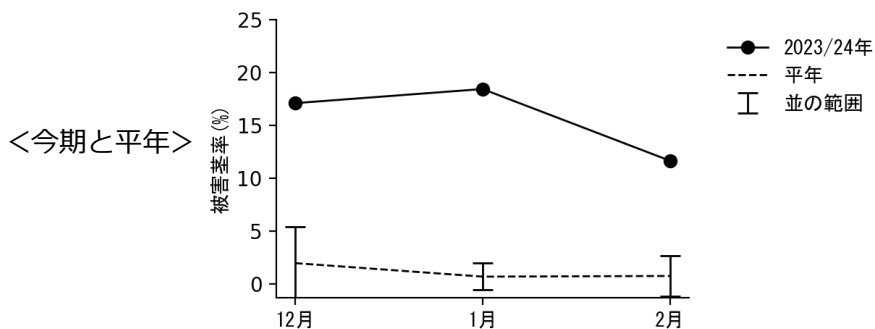
作物	小ギク（彼岸出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
予報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



被害茎率の推移



- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ
- ・発生ほ場率0%（平年：4.3%）

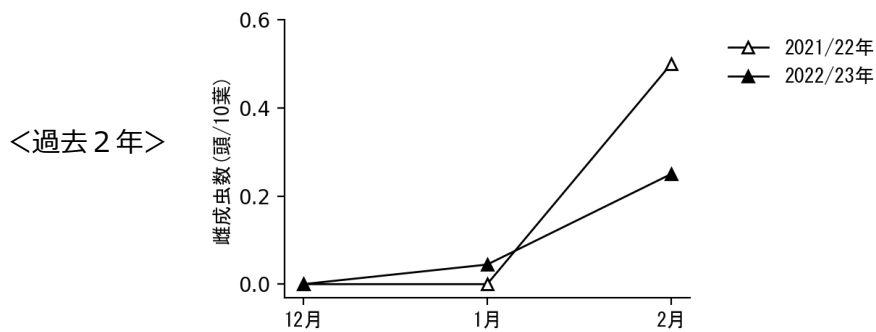
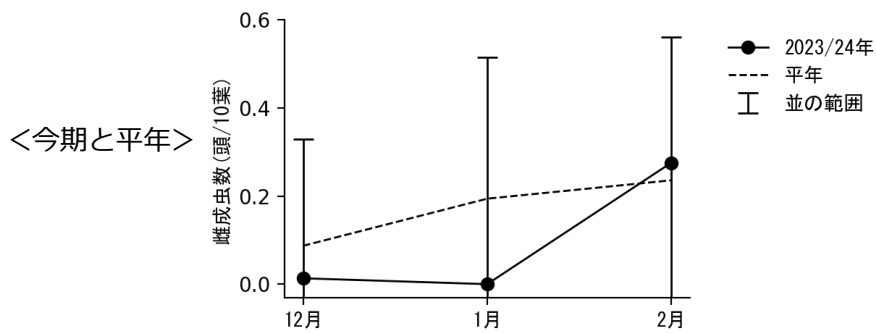
防除のポイント

- ・ほ場周辺のキク科雑草の花等は発生源となりうるので除去する。
- ・被害株は異常分枝するため、被害が確認された場合は速やかに再整枝を行う。
- ・防除は成虫の出現初期から 5～7 日おきに実施する。

作物	小ギク（彼岸出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			 <p>ナミハダニ</p>
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並		
予報	2 月からの増減傾向	—		
	3 月の発生量（平年比）	—		
予報の根拠				

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：ナミハダニ（黄緑型）
- ・発生ほ場率33.3%（平年：17.2%）

防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。